

職場体験 感想文コンクール2024

タイトル	メイクの力	事務局	106
学校名	酒田市立第一中学校	氏名	越坂 来奈

これにしよう。そう思っても現実的に無理だと諦め、なにも続かないそんな自分が嫌だった。でもみんなを笑顔にすること、少ない趣味の1つがメイクだったことから美容系の仕事を調べた。するとメイクセラピストという職業が出てきた。メイクセラピストとは容姿を美しくするメイクアップの技法と心や精神にアプローチするカウンセリングの手法を合わせたメイクセラピーを行う人のこと。自分の夢と一致する部分があったためこの職業に決めた。

まず自分の顔の特徴を捉え、メイクアップの技術を上げることにした。ほとんど独学でやっていた部分があったのでSNSなどで基本を学び、自分なりに試行錯誤した。メイクをしたあと自撮りし、記録した。最初は億劫だったがやっていくにつれ、上達しているのが一目でわかった。メイクだけでこんなにも変われるのかと凄く感動した。自分のなかでこだわりがあったものも臨機応変にしてみた。すると絶対にこれじゃなくちゃだめというこだわりがあったときには見えなかった自分の良さが発見できた。今までコンプレックスを隠すためにやっていたことは、私自身の魅力を自ら下げていることに気がついた。以前より自分らしく好きな服を着て、好きなものを好きといい、自信をもって生きている気がする。自分を変えてくれたメイクの力をもっと広めたい、この感動を味わってほしいと思い、酒田でメイクをしている場所を調べた。介護福祉施設で利用者さんたちにメイクをする活動を見つけた。お客様との会話のコツや仕事についてお聞きしたいと思い、連絡すると快く受け入れてくださり、インタビューすることになった。この職業の重要なスキルである、会話のコツは相手のことをよく知ることだそうで、相手の好きなことや共通の話題を見つけると自分の気持ちが相手にも伝わるそうだ。高齢になるとメイクが面倒になりやめてしまう方が多く、外出しなくなってしまうそう。でも施設でメイクをしてもらうと楽しくなり、身体を動かすようになるそう。肌に触れるという行為が脳への刺激にもなるそう。これを聞いて自分が思っていたよりもメイクには凄い力があり、生きる原動力になることがわかり、熱が入った。

自分にメイクをすることはもちろん、それに加えて新たに活動を始めることにした。それは他人にメイクをすること。テーマは素材を生かそう。コンプレックスを隠すメイクが多いが、無理に自分を隠すのではなくその人自身が持っている魅力を生かして、新たな自分を見つけたい、そんな思いでやることにした。まず1回目は自分がいつもしているメイクを施した。そこでわかったことは、みんなパーツ、肌質が違う。自分がしているメイクが全員に似合うわけではないことに気づくことができた。でもそれぞれの

特徴に合わせて施すことはできたと思う。垂れ目のモデルには、アイラインや涙袋を垂れさせて、可愛い印象にした。一重のつり目のモデルには、目の形にアイラインを合わせて、三角ゾーンを描いて目を大きく、猫っぽい印象にした。涙袋の線、下まつげが納得いかなかった。まつげを上げたらいい感じになると思った。

これまでやってきたことを評価してもらったり、専門的なお話を聞いたりしたいと思い、CPコスメティック代理店CP華本店さんに連絡した。快く受け入れてくださり、実際に訪問させてもらえることになった。店内は凄く綺麗で、全てが輝いて見えた。キラキラとしたドレッサー、沢山のコスメは私にとって異空間で夢のようだった。場に慣れず、凄く緊張した。そんな私に、皆さんは優しく笑顔で接してくれた。凄く楽しく、自然と緊張もほぐれていった。まずはインタビュー。大野さんとみさこさんという方が答えてくださった。お二人の言葉、全てが心に響いた。似合う色を見つける方法をうかがうと、大野さんは「付けたい色が似合う色」、「メイクは365日気分に合わせてたり、好きに選べるのがメイクだと思う。基本さえわかっているればメイクの幅は広がる。」と答えてくださった。他にも目の離れている人と近い人では印象が全く違うことを教わった。「メイクに正解はないから、コンプレックスを見てネガティブにならないで何事もプラス思考でやると楽しい。」と答えてくださった。仕事のやりがいは、感謝を伝えられるときや、施術を終えて笑顔で帰っていくところを見ることだそう。インタビューのあとは、今までしてきたことをまとめたスライドを見てもらった。友達にしたメイクを見せるとそれぞれの良さが存分に活かされていて凄く、特徴を掴んでいる、メイクしてもらいたいなど前向きな感想をいただいた。そのあとは店内のコスメを触らせていただいたり、少しだけメイクをしてもらった。そして、CP華さんで学んだことを生かし2回目は名付けて、個性派メイクをやってみた。まず青系のアイシャドウを乗せた。似合う人は限られるのではないかと内心思っていたが、いざやってみるとクールで普段とは違う魅力を引き出せたと思う。アイシャドウは上まぶたから三角ゾーンにかけて色を乗せ、グラデーションっぽくした。リップを塗ったあと、その上に唇に黒いアイシャドウを重ねた。メイクは1回目よりも上手くいった。メイクが完成するとみんなが笑顔で輝いていた。メイクの人を笑顔にする力を、私は強く感じた。

メイクに関わる職業に就いて、メイクの力で多くの人を笑顔にしたいと思った。大野さんの「付けたい色が似合う色」という言葉を胸に、今後も思い切って鮮やかな色でメイクに挑戦していきたい。以前よりできることは増えたが、もっとメイクの幅は広げていけるだろう。今回の経験を生かし、もっとメイクを追求していきたい。